

第42期 報告書

平成20年4月1日 ~ 平成21年3月31日



(室堂平から見たホテル立山)

立山貫光ターミナル株式会社

20年度事業概況 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

当期のホテル立山ならびに弥陀ヶ原ホテルは、立山～信濃大町間の部分開通に合わせ4月10日から営業を再開し、アルペンルート営業終了の11月30日まで営業いたしました。

当期の営業の経過ですが、ホテル立山では、前年の能登半島地震の影響を払拭するための国内外での積極的な誘客活動と、「雪の大谷ウオーク」のゴールデンウィーク中の開催や散策コースの変更、好天が相まって、4～7月までの宿泊人員は前年を大きく上回り、8月はゲリラ雷雨などの天候不順にもかかわらず前年並みを確保し、大変順調に推移いたしました。

しかし、9月中旬には米国のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに、景気が一気に後退し、9、10月は前年を下回りましたが、シーズン全体では企画募集团体・企画募集個人が好調に推移した結果、落ち込みを最小限に抑えることができ、宿泊人員は、34,345人（対前年106%）となりました。

弥陀ヶ原ホテルにつきましては、ホテル立山同様、4月、5月は前年を大きく上回りましたが、6月は、旅行代理店を通じた企画募集团体の落ち込みにより低調に推移いたしました。

しかし、7月以降は、企画募集個人・団体が好調に推移した結果、シーズン通して宿泊人員は、15,851人（対前年107%）となりました。

またレストラン立山を中心とした食堂部門では、4月、5月の雪の大谷イベント期間中は前年を大きく上回りましたが、6月以降は低調に推移し、シーズン全体ではほぼ前年並みの結果となりました。

売店部門につきましては、積極的な対面販売やオリジナル商品の販売強化により前年を大きく上回りました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山宿泊収入7億14百万円（対前年105%）、弥陀ヶ原ホテル3億77百万円（対前年112%）、レストラン立山4億7百万円（対前年100%）、ターミナル売店5億72百万円（対前年115%）、雑収入6百万円（対前年100%）となり、これにビル賃貸収入1億75百万円（対前年100%）を加えた売上高合計は22億51百万円（対前年107%）となりました。さらに営業外収益14百万円を加えた収益合計は22億65百万円（対前年107%）となった次第であります。

次に営業費につきましては、経営全般にわたる一層の効率化に努めましたが、油脂費（重油）の価格高騰ならびに宿泊人員の増加に伴う誘客手数料の増加、ここ数年間圧縮しておりました修繕工事を実施した結果、22億14百万円（対前年107%）となり、これに営業外費用3百万円を加えた費用合計は22億16百万円（対前年106%）となりました。

以上により、当期の経常利益は48百万円となり、これに特別損失、法人税ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減して、当期純利益は43百万円を計上することとなりました。

ホテル立山宿泊営業成績表（平成20年度）

| 項目 | 実績 | 前年比% |
|----------|------------|------|
| 宿泊営業日数 | 日 234 | 100 |
| 宿泊人員 | 人 34,345 | 106 |
| 一日平均宿泊者数 | 人 147 | 106 |
| 売上高 | 千円 714,451 | 105 |
| 宿泊収入 | 千円 711,922 | 105 |
| 一日平均収益 | 千円 3,040 | 105 |
| 客室回転率 | % 73 | 106 |
| 宿泊効率 | % 55 | 105 |

（備考）営業日数 平成20年4月10日～平成20年11月30日まで235日

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成20年度）

| 項目 | 実績 | 前年比% |
|----------|------------|------|
| 宿泊営業日数 | 日 234 | 100 |
| 宿泊人員 | 人 15,851 | 107 |
| 一日平均宿泊者数 | 人 68 | 107 |
| 売上高 | 千円 377,396 | 112 |
| 宿泊収入 | 千円 303,538 | 107 |
| 食堂収入 | 千円 33,305 | 153 |
| 売店収入 | 千円 39,580 | 120 |
| 一日平均収益 | 千円 1,605 | 112 |
| 客室回転率 | % 57 | 105 |
| 宿泊効率 | % 38 | 106 |

（備考）営業日数 平成20年4月10日～平成20年11月30日まで235日

飲食および物品販売業営業成績表（平成20年度）

| 項目 | レストラン | | ターミナル | | 計 | 前年比% |
|----------|------------|------|---------|------|---------|------|
| | 立山 | 前年比% | 売店 | 前年比% | | |
| 営業日数 | 日 235 | 100 | 235 | 100 | 235 | 100 |
| 室堂到着人員 | 人 853,047 | 108 | 853,047 | 108 | 853,047 | 108 |
| 利用人員 | 人 271,418 | 98 | - | - | - | - |
| 一日平均利用者数 | 人 1,154 | 98 | - | - | - | - |
| 売上高 | 千円 406,836 | 100 | 578,185 | 115 | 985,022 | 108 |
| 売上額 | 千円 406,836 | 100 | 571,613 | 115 | 978,450 | 108 |
| 雑収入 | 千円 - | - | 6,571 | 100 | 6,571 | 100 |
| 一日平均収益 | 千円 1,731 | 100 | 2,460 | 115 | 4,191 | 108 |
| 室堂到着人員 | 円 476 | 93 | 677 | 106 | 1,154 | 100 |
| 一人当たり利用額 | | | | | | |

（備考）営業日数 平成20年4月10日～平成20年11月30日まで235日

財産および損益の状況の推移

| 区分 | 第39期 (平成17年度) | 第40期 (平成18年度) | 第41期 (平成19年度) | 第42期(当期) (平成20年度) |
|----------------|------------------|------------------|------------------|----------------------|
| 売上高(千円) | 2,183,971 | 2,161,725 | 2,107,070 | 2,251,497 |
| 当期純利益(損失)(千円) | △22,493 | △41,030 | 16,303 | 42,720 |
| 1株当たり当期純利益(損失) | △24円99銭 | △45円59銭 | 18円11銭 | 47円46銭 |
| 総資産(千円) | 2,350,015 | 2,156,343 | 1,988,587 | 1,859,388 |

平成21年度の取り組み

1 宇奈月国際ホテルの経営委託

立山黒部貫光株式会社では、ホテルの持つ機能性に和風旅館の持つ安らぎを加えたホテルとして昭和62年に宇奈月国際ホテルをオープンしました。その後、個人消費の低迷や旅行形態の変化等の影響を受け、営業環境は年々厳しさを増す中、積極的な誘致活動と効率的運用による経費の節減に努めてまいりましたが、この度、経営環境を踏まえた一段の改善策導入の必要性に鑑み、平成21年4月1日から、ホテル立山および弥陀ヶ原ホテルを経営している当社がホテルの一貫経営を図ることを目的とし、宇奈月国際ホテルの経営を受託することといたしました。

これにより、ホテル事業は当社が、運輸事業は立山黒部貫光が担当することとし、それぞれの担当事業に専念する体制となり、当社では、ホテル3館の経営一元化のもと、運営コスト圧縮と3館一体経営の優位性を活かした誘客宣伝等、販売力を強化して、ホテル事業の収支改善を図ってまいります。

2 営業力の強化

ホテル販売については、アルペンルートのホテル立山・弥陀ヶ原ホテルと宇奈月国際ホテルの3館が一体となつての誘客を図るため、今年4月、本社に営業部門を設置し、旅行会社への働きかけを一元化いたしました。今後も業界動向を注視し、旅行代理店との協力関係を強化するとともにアルペンルートの営業部門と一体となった販売強化に努めてまいります。

3 個人客・リピーターの増加

近年、インターネットによるホテル予約は漸次増加傾向にあり、ホームページからの新鮮かつ魅力的な情報発信は、ホテルの客室販売にとって非常に重視されております。今後、一層自社ホームページにおいて最新情報を随時提供するとともに、きめ細かな価格設定に取り組むことで柔軟で効率的な客室販売を行い、個人客の獲得に努めてまいります。また「ゲスト会員制度」などの個人会員制度をより一層充実させることにより、更なるホテルファンの獲得にも努めてまいります。

4 顧客満足度の向上

ホテル立山・弥陀ヶ原ホテル2館では、山岳リゾートホテルとしての特長を活かした高原散策やスライドショー、スターウォッチングなどの企画イベントを実施しております。また、宇奈月国際ホテルでは、和風旅館のあたたかさを取り入れたリゾート温泉ホテルとしての特長を活かしつつ、顧客ニーズに対応したサービスの充実に努めてまいります。今後も各館の特長を活かしたサービ

スの充実を図るとともに、基本である接客や食事サービスの一層の向上を通じて、顧客満足度の向上を図り、お客様が何度でも利用したい、紹介したいという思いを抱いていただけるようなホテルとなるよう努めてまいります。

5 食堂・売店部門の強化

近年、ホテル立山の食堂施設では、訪日旅客の急増により訪日団体昼食が増加する中、国内旅客の昼食利用は持込弁当などの影響により、団体利用客を中心に年々厳しさを増しております。

本年は、世界的金融危機により海外からの誘客に懸念材料を抱えていることから、国内利用客の利用増が重要であると考えております。

営業活動では、国内団体客を取り込むため旅行会社と連携し販売強化を図ると同時にオプション食（選択自由の昼食）の改良、団体席の効率的運用など受入態勢についても見直しいたします。また、オプション食を採用しない団体への割引券配布を行います。国内個人客の誘客については、店頭におけるおすすめ商品の案内を行うなど積極的な誘客により増販を図ってまいります。

次に、宇奈月国際ホテルの食堂施設では、近年顕著な日帰り・宴会利用客の減少傾向を受け、効率化策の一環として、平成20年度より、レストラン黒部の営業を予約制として運営してまいりました。今後とも、顧客ニーズを踏まえた食堂施設の効率的運営について、検討を進めてまいります。

売店部門では、国内外のお客様を問わず接客サービスの向上を図るとともに、売上げが好調なオリジナル商品について、今後ともお客様に喜ばれる商品開発に努め、更なる商品の拡充とシリーズ化によって、収益力の強化を図ってまいります。

6 宿泊・食品の安全確保

ホテル事業を営む当社にとりまして、安全の確保は当然のことであり、施設設備・食品の安全には今後とも万全を尽くしてまいります。近年、重大事故・偽り等の不祥事が相次いでいるところから、お客様の安全に対する関心が高く、会社も安全に対する社会的責任が厳しく問われております。

当社では、施設の日常点検と整備および食品の衛生管理と仕入食材の品質管理を徹底し、お客様に安心・信頼・信用してご利用いただけるよう努めてまいります。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成21年3月31日現在)

| | | (単位: 百万円) | |
|---------------|--------------|-----------------|--------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 388 | 流動負債 | 164 |
| 現金及び預金 | 284 | 支払手形 | 19 |
| 未収金 | 38 | 買掛金 | 20 |
| 商品 | 2 | 短期借入金 | 40 |
| 貯蔵品 | 39 | 未払金 | 28 |
| 前払金 | 4 | 未払費用 | 5 |
| 繰延税金資産 | 17 | 未払法人税等 | 4 |
| | | 未払消費税等 | 7 |
| 固定資産 | 1,471 | 預り金 | 1 |
| 有形固定資産 | 1,155 | 賞与引当金 | 36 |
| 土地 | 119 | 固定負債 | 359 |
| 建物 | 683 | 長期借入金 | 43 |
| 建物附属設備 | 161 | 退職給付引当金 | 306 |
| 構築物 | 118 | 役員退職慰労引当金 | 9 |
| 機械及び装置 | 20 | 負債合計 | 524 |
| 車両運搬具 | 6 | | |
| 器具及び備品 | 47 | (純資産の部) | |
| 無形固定資産 | 5 | 株主資本 | 1,397 |
| ソフトウェア | 4 | 資本金 | 900 |
| 電話等加入権 | 1 | 利益剰余金 | 497 |
| 投資その他の資産 | 309 | その他利益剰余金 | 497 |
| 投資有価証券 | 114 | 繰越利益剰余金 | 497 |
| 関係会社株式 | 35 | 評価・換算差額等 | △ 62 |
| 繰延税金資産 | 126 | その他有価証券評価差額金 | △ 62 |
| その他 | 33 | 純資産合計 | 1,334 |
| 資産合計 | 1,859 | 負債・純資産合計 | 1,859 |

損益計算書の要旨

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

| | | (単位: 百万円) | |
|-----------------|--------------|-----------|----|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 売上高 | 2,251 | | |
| 売上原価 | 594 | | |
| 売上総利益 | 1,656 | | |
| 販売費及び一般管理費 | 1,618 | | |
| 営業利益 | 37 | | |
| 営業外収益 | 13 | | |
| 営業外費用 | 3 | | |
| 経常利益 | 48 | | |
| 特別損失 | 1 | | |
| 税引前当期純利益 | 46 | | |
| 法人税 住民税及び事業税 | 10 | | |
| 法人税等調整額 | △ 6 | | |
| 当期純利益 | 42 | | |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位: 百万円)

| | 株主資本 | | | | | 純資産合計 |
|-----------------------------|------|--------------|-------------|--------|----------------------------------|-------|
| | 資本金 | 利益剰余金 | | 株主資本合計 | 評価・換算差額等 その他 有価証券 評価差額金 | |
| | | その他 利益剰余金 | 利益剰余金 合計 | | | |
| | | | | | | |
| 前期末残高 | 900 | 454 | 454 | 1,354 | 8 | 1,363 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 当期純利益 | | 42 | 42 | 42 | | 42 |
| 株主資本以外の 項目の当期 変動額(純額) | | | | | △71 | △71 |
| 当期変動額合計 | - | 42 | 42 | 42 | △71 | △28 |
| 当期末残高 | 900 | 497 | 497 | 1,397 | △62 | 1,334 |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (平成21年3月31日現在)

●設立年月日
昭和42年12月24日

●資本金
9億円

●発行済株式総数
900,000株

●株主数
2名 立山黒部貫光株式会社
富山地方鉄道株式会社

| | | |
|---------|---------|------|
| ●役員 | | |
| 代表取締役社長 | | 中村憲史 |
| 専務取締役 | 総務部長 | 間坂通夫 |
| 取締役 | | 桑名博勝 |
| 取締役 | | 高田一仁 |
| 取締役 | ホテル業務部長 | 佐伯博 |
| 取締役 | 経営監査室長 | 村井宏光 |
| 取締役 | 経営企画室長 | 堀内和夫 |
| 取締役 | 経理部長 | 佐川栄 |
| 監査役 | | 松岡彰 |
| 監査役 | | 川岸宏 |
| 監査役 | | 稲田一朗 |

アルペンルートと会社のあゆみーホテル3館一体経営までの歴史ー

| | |
|-------------|---|
| 昭和27年 4月 1日 | 立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円） |
| 29年 8月13日 | 鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始 |
| 30年 7月 1日 | 高原バス（美女平～弘法）営業開始 |
| 31年10月 4日 | 弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR） |
| 35年 5月 8日 | 富山県・北陸電力(株)・TKR・関西電力(株)により 立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立 |
| 39年 6月20日 | 高原バス全線（美女平～室堂）営業開始 |
| 8月 1日 | 関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始 |
| 11月 7日 | TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議 |
| 12月25日 | 立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円） |
| 42年12月24日 | 立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円） |
| 44年 5月 8日 | 室堂ターミナルビル建設工事着工 |
| 7月20日 | 黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始 |
| 12月 9日 | 立山トンネル貫通 |
| 45年 7月 1日 | 富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名 |
| 7月25日 | 立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始 |
| 12月15日 | 一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA） |
| 46年 4月25日 | 立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始 |
| 5月20日 | TKAが自動車道を富山県道路公社に移管 |
| 6月 1日 | 立山黒部アルペンルート全線開業 |
| 47年 8月28日 | 室堂ターミナルビル全館完成 |
| 9月 1日 | ホテル立山営業開始 |
| 53年10月20日 | 立山有料道路（美女平～室堂）舗装完了（富山県） |
| 54年10月 1日 | TKKとTKAが合併 |
| 61年 4月11日 | 宇奈月国際ホテル新築工事着工 |
| 62年 9月21日 | 宇奈月国際ホテル営業開始 |
| 平成 2年10月 1日 | 立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円） |
| 3年10月11日 | 弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館 |
| 6年 7月12日 | 弥陀ヶ原ホテル改築営業開始 |
| 12年 4月 1日 | 弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託 |
| 17年10月 1日 | TKKとTKRが合併 （存続会社 立山黒部貫光株式会社） |
| 21年 4月 1日 | 宇奈月国際ホテルTKKから経営受託 |

ホテル3館のご案内

立山黒部アルペンルート



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂
☎ (076) 465-3333 FAX (076) 465-3336
<http://www.alpen-route.co.jp/h-tateyama/>



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原
☎ (076) 442-2222 FAX (076) 442-2242
<http://www.alpen-route.co.jp/midagahara-h/>

宇奈月温泉



黒部峡谷宇奈月温泉 宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26
☎ (0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808
<http://www.alpen-route.co.jp/unazukikokusaihotel/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社
〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36
☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 432-9056